様式イ

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書（その1）

施策体系コード	1-1-3			事業名	子育てアドバイザー養成・活動促進事業
担当	子ども未来局子育て支援部子育て支援課　原田　TEL　211-2988				

全体計画		
事業内容	親と子を支援できる専門的な知識を持つ子育て・家族支援者（子育てアドバイザー）を養成し、子育て支援の場を広げていくため、子育て・家族支援者養成講座を実施する。また、修了した子育てアドバイザーを中心に、父親が積極的に子育てに関わることができるような場として、日曜ファミリー子育てひろば(サンデーサロン)を開催する。	＜年度別の事業内容＞ (19年度)「子育て・家族支援者養成講座」を実施し、子育てアドバイザーがサンデーサロン等で活動 (20年度)同上 (21年度)子育てアドバイザーがサンデーサロン等で活動 (22年度)同上

事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容（決算）	平成20年度事業内容（決算）
	・子育てアドバイザー認定者は、平成18年度34人、平成19年度26人。 ・子育て・家族支援者養成講座、公開講座の開催 ・サンデーサロンを市内2カ所の区保育・子育て支援センターでそれぞれ9回実施。延べ54人の子育てアドバイザーが活動（このほか本庁舎で開催しているシティサロンで延べ26人の子育てアドバイザーが活動している）。	・18年度、19年度において子育て・家族支援者養成講座で養成したアドバイザーに対し、スキルの維持・向上を目的とした、子育てアドバイザーバックアップ研修を計2回実施（1月に開催23人受講、3月に開催15人受講） ・サンデーサロンを市内4カ所の区保育・子育て支援センターで毎月1回実施。延べ141人の子育てアドバイザーが活動した（このほか、シティサロンで延べ35人の子育てアドバイザーが活動している）。
	平成21年度事業内容（決算）	平成22年度事業内容（決算）
	・18年度、19年度において子育て・家族支援者養成講座で養成したアドバイザーに対し、スキルの維持・向上を目的とした、子育てアドバイザーバックアップ研修の実施（12月に開催15人受講） ・サンデーサロンを市内5カ所の区保育・子育て支援センターで毎月1回実施。延べ175人の子育てアドバイザーが活動した（このほか、シティサロンで延べ35人の子育てアドバイザーが活動している）。 ・企業が主催する商業施設内での一時預かり事業の開始に伴い、子育てアドバイザーをスタッフとして紹介し、新たな活動の場の提供につながった。	・子育てアドバイザーバックアップ研修の開催（11月に開催19人受講） ・サンデーサロンを市内6カ所の区保育・子育て支援センターで毎月1回（西区のみ1月は休み）実施。延べ213人の子育てアドバイザーが活動した（このほか、シティサロンで延べ36人の子育てアドバイザーが活動している）。

様式イ

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書（その2）

施策体系コード	1-1-3			事業名	子育てアドバイザー養成・活動促進事業

達成目標の状況

項目	18年度末（現状）	19年度末（実績）	20年度末（実績）	21年度末（実績）	22年度末（実績）	22年度末（目標）
サンデーサロン実施施設数	－	2カ所	4カ所	5カ所	6カ所	5カ所

市民・企業等との協働の状況（市民・企業等の参加、支援、協力の状況）

■市民との連携、市民参加

子育てアドバイザーの活動場所を広げることで、市民の子育てに対する関心を高め、市民ボランティアなどとして自発的に市民参加するきっかけづくりになっている。また、子育てアドバイサーの活動場所ひとつであるサンデーサロンは、休日に開催することで、普段は参加が難しい父親が子育て支援活動に加わることに寄与している。

■企業等との連携・協働

［資金協力］（該当なし）
［人材協力］（該当なし）
［情報協力］（該当なし）
［その他の協力］ 企業が実施する子育て支援事業の発展に伴い、子育てアドバイザーの活動機会の増加に期待できる。

■市民・企業等が参加しやすい環境づくり

一般市民が子育て支援に関する専門的な知識を持つアドバイザー（子育てボランティア）となり、活動の場において市民の子育て支援に対する関心を高めることにより、子育て支援に関して自発的な市民参加につながっている。

評価（成果）

専門的な知識を持つ子育てアドバイザーを活用して実施しているサンデーサロンやシティサロンは、子育て支援に関する情報提供の場であるほか、特にサンデーサロンは、父親の育児参加の場になっており、子育て支援の社会的な広がりにつながっている。

課題

現在、子育てアドバイザーは、サンデーサロンやシティサロンを中心とした子育てサロンを主な活動場所としているが、今後は、民間事業との連携も含め、スキルに見合った活動機会を安定供給していく必要がある。また、人材育成の面では、より気軽に参加できる子育てボランティアの育成にシフトしていく。

今後の事業の予定・方向

市が行う事業のみでなく、企業・団体と連携した活動の場などを含め、子育てアドバイザーのスキルを活かせる機会をいかに多く提供していくかを検討し、市民と行政の協働へつなげていく。

様式イ

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書（その3）

（単位：千円）

施策体系コード	1-1-3			事業名	子育てアドバイザー養成・活動促進事業

事業費の推移

項目			19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費		6,700	5,720	720	860	14,000
	財源内訳	国・道支出金	6,300	4,900	300	300	11,800
		市債	0	0	0	0	0
		その他	400	400	0	0	800
		一般財源	0	420	420	560	1,400
予算	事業費		6,700	6,100	860	930	14,590
	財源内訳	国・道支出金	6,300	5,300	0	0	11,600
		市債	0	0	0	0	0
		その他	400	400	0	0	800
		一般財源	0	400	860	930	2,190
実績	事業費		5,683	819	894	619	8,015
	財源内訳	国・道支出金	5,159	0	0	0	5,159
		市債	0	0	0	0	0
		その他	390	0	0	0	390
		一般財源	134	819	894	619	2,466
事業費の進捗率			（H19実績＋H20実績＋H21実績＋H22実績）／（計画事業費）				57.3%

計画との差異（予算・実績・事業内容・規模・時期等）

《全体》

[19年度]

[20年度]
有償活動を前提とした子育てアドバイザーの活動機会の拡大が容易に進まないことから、子育てアドバイザー養成講座を一旦休止し、アドバイザーの資質の充実を図るため子育てアドバイザーバックアップ研修の実施に変更したため、実績が予算を大きく下回った。

[21年度]
サンデーサロンに係る除雪費用が予算措置されていないことなどから、実績が予算額を上回った。

[22年度]
サンデーサロンに従事したちあふる保育士の時間外勤務手当については、振替等で対応したため実績は予算額を大きく下回った。